

南三陸町の「福興市」

南三陸町の「福興市」（地元ではそう呼んでいる）行きの誘いを受けました。「ぼうさい市」の関係者からで、これは各地の商店街がいざという時には助け合おうという趣旨で交流する活動です。「こんなに早くその時が来ようとは」と思いつつ、ともかくも毎月最終日曜日に市を開いているとのこと。3月11日以降被災地のことが気にかかり、何かできないかと思いつつも、足手まといになってはと逡巡していました。南三陸町からは、「物見遊山でもいい、買い物三昧でもいい、ともかく現地に来て思いを共有してほしい」とのメッセージ、背中を押されるように8月28日東北へ向かいました。くりこま高原駅から現地に向かう途中、小さな川沿いの松が一行黒く変色している姿には、ここまで津波が来たのかと驚くばかり。町の中心部は、瓦礫が整理されてもほとんど建物が無い状態のままですが、高台の「福興市」は賑わっていました。お客は全国から、業者は半分以上が南三陸町でした。一方隣接する体育館では、被災者が語り部となって何が生死を分けたかという話をされていました。他人事ではない、明日は我が身と思いつつ、重い宿題が残ったままです。 (昌子住江理事長)

第三海堡の一般公開日

ある一般公開時の一コマ。「探照灯の上にアンテナみたいなものがあるけど、あれは何ですか？」「釣り客が釣り竿を立て掛けるために取り付けたものですよ。」第三海堡が大正12年の関東大震災で大きく崩落したものの、頭部（東京湾口側）にあった探照灯は海面上にあつて絶好の釣り場になっていたことを物語るものです。

第三海堡の遺構は、4個の構造体が陸揚保存されていますが、そのうち大型兵舎のみが平成町のうみかぜ公園に、探照灯、砲台砲側庫及び観測所（砲側庫と一体構造）の3基が夏島都市緑地にあります。当初は、大型兵舎のみが一般公開される計画だったようですが、「追浜で保存したい。」という関係者の熱意が結実し、移設に耐えられないとされた「地下通路」を除いた3基が廃棄の憂き目から逃れることができました。

昨年8月に浦郷町の東亜建設敷地（追浜展示場）から夏島都市緑地への大型クレーン船での運搬作業、同年11月に保存記念披露式を経て、今春から一般公開の運びとなりました。当面一般見学日を毎月第1日曜日として10:00、11:00、13:00及び14:00の4回に分けて案内しています。その他の団体及び個人の見学希望者については事前調整の上応じることとしており、いずれも任意団体「おっぱまはっけん倶楽部」と協同で実施しています。

周辺地域への広報、案内看板の設置、関連資料の展示場所の確保、効果的な見学通路の整備及び現場環境維持整備等の諸問題を解決していきたいところです。 (徳重良和理事)

飯森範親氏特別講演「マエストロとまちおこし」を終えて

平成23年6月14日（火）に、エルシャンテ追浜において、山形交響楽団音楽監督・飯森範親氏をお招きし、「マエストロとまちおこし」と題して、講演会が開催されました。120席用意した席が満席となりました。講演が始まる前に、ウェルカム演奏として、飯森氏の後輩の神奈川県立追浜高等学校の生徒2年生4人で結成された「アンティパスト」の演奏をお聞



飯森範親氏の講演

きいただいたあと、幼少の頃に抱いた「指揮者になりたい」という夢に向かって切磋琢磨したこれまでの歩みと、山形交響楽団を劇的に革新し「わが街のオーケストラ」と地域から慕われる楽団に作り変えた地域活性化への取り組みについてお話しを伺いました。また、質疑応答のコーナーでは、指揮者と楽団とのコミュニケーションの取り方や山形の観光名所の紹介など、さまざまな質問に懇切丁寧にユーモアを交えながら、お答えいただきました。すべての事柄に対してポジティブに取り組む姿勢にご参加された方々は感銘を受けているようでした。講演後に開催されたサイン会では、長蛇の列ができました。

今後も、地域の方々が気軽に参加でき、街全体で盛り上がるようなイベントを企画させていただきたいと思います。

最後になりましたが、ボランティアスタッフとして、ご協力いただいた追浜高等学校の学生や先生をはじめ、OB・OGの皆様には感謝を申し上げます。

尚、このイベントの収益金の一部（30,000円）を（財）神奈川新聞厚生文化事業団を通じ「東日本大震災救援基金」に寄付させていただきました。（佐野 裕理事）

第三海堡移設記念シンポジウムの開催

第三海堡移設記念シンポジウムは、当初3月26日に開催の予定でしたが、東日本大震災の影響で延期になっていました。関係者の方との協議の結果、6月12日（日）に改めて開催することとなりました。



パネルディスカッションの様子

た。会場は「アイクル」講堂、プログラムは以下の通りです。基調講演：「東京湾第三海堡建設の経緯」

原 剛氏（軍事史学会副会長）

パネルディスカッション：

「歴史遺産を活かした追浜のまちづくりを進めるには」
パネリスト 横須賀市市史編纂室 高村聡史氏

NPO 法人安房遺産ネットワーク池田恵美子氏

日本大学理工学部特任教授 伊東 孝氏

司会 昌子住江（NPO 法人アクションおっぱま）

原氏の長年の研究成果をふまえた講演は、100名を越える参加者に深い感銘を与えました。パネルディスカッションでは、特に池田氏による館山市での活動が、先進事例として印象に残りました。（昌子住江理事長）



ワイン研究会だより



小生がワイン造りと係わるようになったのは、数年前 追浜発見講座で歴史遺産の多い追浜の街なかでワインを造っていることを知り、その後ボランティアでお手伝いするようになってからです。そもそも、居酒屋でぬる爛と炙ったイカでキュウの輩でしたから、驚きの出会いでした。

最近ではワイン愛好家が増え、需要は急成長しています。“ワインガール”の女性パワーも大きいようです。目で楽しみ（色）、鼻で楽しみ（香）、舌で楽しみそしてのど元で味わう。いろいろな形状のワイングラス、赤白に合ったそれぞれの料理で食を楽しむ、日本酒とは違った文化が感じられます。

ワインの味は奥深く、ぶどうの種類、土壌、地形気候（気温、日照量）、造り手の個性などの条件と醸造法でさまざまな品質に分類されるようです。

赤なら渋味とボリューム感のバランス、そして

香り。白なら酸味と甘味のバランスそしてスッキリかコクありか。口当たりでは軽いか重いかで表現されたりします。この組み合わせで何十種類もの味の領域が醸し出されます。ちなみに、追浜ワインの味はどのあたりになるのか、小生には未だ、自信はありません。当ワイナリーの創業者の1人で造り手の「福島ヒゲ仁さん」に、味わいかた楽しみかたなど教えてもらいたいものです。

追浜ワインは誕生して6年になり、造り手の熱意が高級ワインを凌ぐ？追浜ワインに進化してきております（チョット自画自賛し過ぎるか）。一人でも多くの皆さんに、このワインに込められた情熱を味わってもらい、造る楽しみも共有できればよいと考えています。

(杉山 暢理事)

『東京湾第三海堡物語』

刊行の記

昨年11月、第三海堡遺構の展示場がアイクル向かいの夏島都市緑地にオープンし一般公開されました。これにともない、私たち「NPOアクションおっぱま」は「おっぱまはっけん倶楽部」と協働で展示場のガイドを行うことになり、昌子理事長の発案で見学のしおりを発行し見学にきた方にこれを配って遺構を良く理解していただくとともに、「こみゅに亭カフェ」にも置いてできるだけ多くのお客様にも知っていただくことにしました。

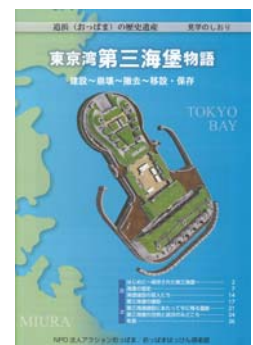
昨年12月より本年7月まで約半年の時間を掛け総勢13名が各パート毎に分担して執筆し、月1回の集まりで相互に推敲を重ね、7月末写真のようなA5版28頁のカラー印刷の冊子を1,000部刊行することができました。冊子の構成は、以下のとおり、遺構の現在の姿、海堡の辿った歴史、港湾土木建設としての技術的水準の高さ、地域資産としての重要性などを網羅しました。

- ① はじめに～保存された第三海堡
- ② 海堡の歴史

- ③ 海堡建設の恩人たち
- ④ 第三海堡の建設
- ⑤ 第三海堡建設にあたって今に残る遺跡
- ⑥ 第三海堡の活用と追浜のみどころ
- ⑦ 年表

第三海堡に関しては、既に多くの方々が発見研究の成果を発表されており、参考資料は多岐にわたっていますが、私たちは出来るだけこれら貴重な資料に沿った正確な史実、事実を冗長でなく簡明に伝えたいという思いでやってきました。月1回の推敲の集まりでは白熱した議論・検証・検討がおこなわれ時間を忘れるほど熱中した時間を持つたことは、我ら中年も捨てたものではないと密かな満足感を味わっています。

(村澤醇治理事)



会員の投稿

アクションおっぱまとの出会いから

正会員 長山 隆

私は、追浜に住んで7年になります。3年前に、母を送ってから、落ち着いて振り返ってみた時に、住んでいる町のことを何も知らないことに気づきました。同じ町内の方がアクションおっぱまやおっぱまはっけん倶楽部の活動などをされていたお陰で夏島貝塚、東京湾第三海堡構造物を見学することが出来ました。

横須賀が、海軍の街であったことは、知っていましたが、追浜のことはよく知りませんでした。日本における海軍航空発祥の地で、その為に、追浜の名が全国に知られるようになったこと、その後に設置された海軍航空廠で開発された技術力は、戦後連合国が驚嘆の目を持って評価したこと、夏島貝塚は教科書にも掲載されている大森貝塚より古い史跡であること、第三海堡遺構の日本の防衛史上、或いは海中工事史上に残した生き証人としての使命等々を知るにつれて一層興味が深まってきました。

私は、これを機に、郷土史に関する外部講座にも参加する様になり、更にサイエンスカフェも聴講させて頂く様になりました。少しずつ追浜の地に対する思い入れが深くなってきている様な気がします。

今は、これまで見向きもしなかった自治体の広報紙やタウンニュース等にも隅々まで目を通し、地域の情報吸収に努め、街おこし、活性化に頑張っておられる方々を応援するとともに機会があれば微力ながらお役に立ちたいと思っています。

2011年9月まで	
1月23日	第1回薬膳料理教室(石渡千代他)
2月26日	ザ・サタディーズ コンサート
4月15日	1周年記念あつくんのギター弾き語り
6月19日	JAZZ 流し(泰野春樹&K帽)
7月23日	ワインを飲みながらカントリーミュージック(The Timeless Band)
8月26日	ドラゴンカフェ 2011 サマーコンサート(古田隆一)
9月16日	JAZZ 流しカムバック(泰野春樹&K帽)



カントリーミュージック

ドラゴンカフェ

編集後記

ようやく暑さがおさまり秋らしくなってきました。秋は収穫を楽しみ、文化活動が活発になる季節。今号は「第三海堡」に関する記事をご紹介します。地域遺産として、次世代に語り継ぎたいまちの宝、是非親子で見学していただきまちの歴史に触れてみてはいかがでしょうか。そして食欲の秋、こみゆに亭の直送野菜と追浜ワインで食卓を彩るのはいかがでしょうか。地域の話題で話が弾むといいですね。さてここでお知らせですが、「絵本と手紙のある café JOYhouse」さんがご家族のご事情で、閉店になりました。ゆったりとした時間とご姉妹のおもてなしが素敵な空間でした。またいつか追浜のまちに戻ってくださることをお祈りしています。(菊地真紀子正会員)

会報 2011年11月発行 4号

- 発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま
〒237-0066 横須賀市追浜町 2-13
TEL 046-865-2625 FAX 046-866-2790
- 発行人 昌子住江
- 編集 内野忠治、菊地真紀子、昌子住江
吉田洋子